



## 災害時のSNSの利用

名前： \_\_\_\_\_

あなたは、友人と自然豊かな観光地に旅行に来ています。  
夕暮れ時、観光地で休んでいると、突然、スマホから緊急地震速報の音が鳴りました。

すぐに今まで経験したこともない大きな揺れがありました。大きな揺れは数十秒続き、揺れが収まった後、周囲を見ると、倒壊した建物が目に入りました。大地震が起きたことが分かりました。

2時間後、地元の方の誘導で、ある建物に避難しました。地元の方や観光客など、十数人が集まっています。あなたは、家族の安否が心配になり、家族に電話しましたが、つながりませんでした。



### 1.考えてみよう 家族と連絡を取るために、事前に必要な準備を考えてみよう。

家族がスマホを使えなくなった状況も想定し、SNSを使う場合と使わない場合の、複数の方法を書きましょう。

あなたは、今の状況を知るためにスマホを操作しました。非常に大きな地震が起きたことは分かりましたが、自分のいる地域がどうい状況なのかが分かりません。

そのうち、避難している人たちが、「山の向こうにある化学工場が爆発したらしい。ここも危険だ。」と叫び始めました。あなたはネットで調べてみましたが、そのような情報は見付かりませんでした。あなたは、本当だろうかと疑問をもちました。

### 2.考えてみよう 災害時に有効な情報源をあげてみよう。

災害時には、根拠のないうわさに惑わされ、誤った行動を取ってしまうことがあります。災害の状況を正しく把握するために有用なサイトや、SNSのアカウントを調べましょう。

避難して二日目の夜を迎えました。水や食料は足りていますが、おむつや持病の薬が不足しているようです。

避難所の責任者は、食料・物資の状況について、関係機関とすぐに連絡を取らなければいけないと考えています。あなたは、もしも自分が責任者だったら、避難所の状況をどのように把握し、どのように伝えるだろうかと考えました。



**3.考えてみよう** この事例のようなときに、情報を取りまとめて伝えるときの注意点を考えよう。

食料・物資の情報を集めるときの注意点	
相手に短時間で伝えるために、情報を整理するときの注意点	

**！ スキルのポイント**

**「だいふく」で情報を見極めよう**

災害時には、情報収集手段や連絡手段としてもSNSが活用されるようになりました。しかし、災害時は不安や混乱から、誤った情報や不安を煽るような情報、いわゆるデマやフェイクニュースがネット上で拡散されやすくなります。

そこで誤った情報を見抜くためのキーワードとして、「だいふく」を意識してみてください。

「だ」は「だれが言ったのか」、「い」は「いつ言ったのか」、「ふく」は「複数の情報を確認したのか」です。どんな人が、いつ言ったのか

を複数の情報にあたりながら検討することで、誤った情報を見抜くだけでなく、誤った情報を拡散するリスクを減らすことができます。

**だ**  
れが言ってるの？



**い**  
つ言ったの？



**ふく**  
すうの情報を確かめた？

